

本機は最新の劇場フォーマット DTS:X に対応しました。

DTS:X コンテンツの再生によって、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を感じることができ、ホームシアターで驚くほど鮮明で迫力があり、精密で奥行きのある本物の感覚を体験できます。

また、DTS:X ではない従来のコンテンツに対しても頭上を含めた位置の音響空間を創り出す Neural:X にも対応しました。

DTS:X コンテンツの再生をお楽しみいただくために

DTS:X コンテンツを最大限にお楽しみいただくために、以下の手順でスピーカー設置および設定を行なってください。

■ スピーカーの設置

DTS:X コンテンツをより効果的に再生するためには、プレゼンスピーカーの設置をおすすめします。

* サラウンドスピーカーを前方に置く「バーチャルシネマフロント」は除く

■ 必要な設定

DTS:X コンテンツを再生するには、以下の設定が必要です。

- 設定メニューの「音声設定」→「オブジェクトデコードモード」を「有効」にする。
- 以下のいずれかのサウンドモードに切り替える。
 - STRAIGHT キーを押し、ストレートデコードを有効にする。
 - PURE DIRECT キーを押し、ピュアダイレクトを有効にする。
 - リモコンの SUR.DECODE キーを繰り返し押し、サラウンドデコーダーとして「Neural:X」を選ぶ。



上記の設定がされていないときは、DTS-HD コンテンツとして再生します。

(CX-A5100 のみ)

音場プログラムを選択しているときも、DTS:X コンテンツを再生できます。ただし、サンプリング周波数が 48kHz を超える場合はストレートデコードで再生します。

■ 補足事項

- DTS:X コンテンツを再生中は、情報メニューの「音声信号」で、入力信号のチャンネル数とオブジェクト数が表示されます（例：7.1.4 + 1Object）。
- DTS:X コンテンツを再生中は、オプションメニューの「ダイアログ (Dialog)」→「DTS ダイアログコントロール (DTS Dialogue Control)」でセリフの音量を調節できます。
- DTS:X コンテンツ再生時や Neural:X デコーダー選択時は、YPAO ボリューム、セリフ音量調整、エクストラベース、ミュージックエンハンサーは機能しません。

用語解説

DTS:X

DTS:X は、DTS 社により開発された次世代オブジェクトベースのサラウンド技術です。チャンネルの枠を越えて音のオブジェクトが視聴者を包み込む音場空間内を自由に動き、より正確な音場表現を実現します。この音場表現が、これまでにない音の豊かさやリアリティ、没入感を生み出します。テレビ内蔵のスピーカー、ホームシアターのスピーカー、さらには映画館に設置された多数のスピーカーに至るまで、多様なスピーカーの配置と視聴スペースに合わせて音声を自動調整し、最高の音響空間をつくり出すことができます。さらに詳しい情報については、<http://www.dts.com/dtsx> をご覧ください。

Neural : X

Neural:X は、DTS 社による最新のダウンミックス / アップミックス技術であり、空間の再配置技術です。Neural:X エンコードされた DTS:X 信号と通常の信号のどちらもアップミックスできます。DTS:X 対応した AV レシーバーでは、Neural:X が最大で 11.x チャンネルの信号をつくり出します。

DTS ダイアログコントロール

中央に定位する音（セリフなど）の音量を高める機能です。雑音の多い環境で視聴する場合などに、セリフなどの音を聞き取りやすくします。また、聴力障害を持つ方にとっても便利な機能です。なお、コンテンツによっては DTS ダイアログコントロールを使用できない場合があります。ファームウェアの更新により、新たな機能が追加されたり、機能が拡張されたりすることがあります。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS, Inc. のライセンスに基づき製造しています。

DTS、そのシンボルマーク、DTS とそのシンボルマークの組み合わせ、DTS:X、DTS:X ロゴは米国及びその他の国々における DTS, Inc. の登録商標又は商標です。©DTS, Inc. All Rights Reserved.